

平成16年7月12日

## サッポロビール株式会社

## 課税移出(引取)数量報告 平成16年・上期分

サッポロビール(株) 広報室

下記の通りご連絡申し上げますので、よろしく御取計ください。

単位:KL、千函、%

<課税移出・上期分>		本年キリットル	本年大瓶換算	前年比	前年キリットル	前年大瓶換算
①ビール	国産	221,389	17,487	▲ 5.8	234,904	18,555
	輸入	2,476	196	15.8	2,138	169
	小計	223,865	17,683	▲ 5.6	237,042	18,724
②発泡酒	国産	113,386	8,956	▲ 32.3	167,485	13,229
	輸入	0	0	-	0	0
	小計	113,386	8,956	▲ 32.3	167,485	13,229
③ドラフトワン		102,755	8,117	-	0	0
総計(①+②+③)		440,006	34,756	8.8	404,528	31,953
ビール+発泡酒(①+②)		337,251	26,639	▲ 16.6	404,528	31,953
雑酒計(②+③)		216,141	17,073	29.1	167,485	13,229

\*③の項目の品目・税率区分は「雑酒 その他雑酒②」だが、当社の当該品は一つだけなので「ドラフトワン」と記した。

\*国産は課税移出、輸入は課税引取り。大瓶換算は1函=12.66%。 \*全ての数は表示の1桁下を四捨五入して算出。

\*前年比は1函単位の実数から算出しているため、千函・万函単位の本表の表示数からの逆算とは異なることがある。

## &lt;ブランド別販売状況&gt;

単位:万函、%

	<上期>			<累計>		
	本年函数	前年比	前年函数	本年函数	前年比	前年函数
黒ラベル	1,284	▲ 9.2	1,414	1,284	▲ 9.2	1,414
エビス計	388	8.6	357	388	8.6	357
ギネス	16	5.6	15	16	5.6	15
生搾り計	872	▲ 19.3	1,080	872	▲ 19.3	1,080
ドラフトワン	800	-	0	800	-	0

## &lt;トピックス&gt;

市場動向 : 上期総需要の前年比は、ビールは約97%、発泡酒は約90%、合計では約94%と、昨年来の厳しさが続いています。一方、発泡酒に当社ドラフトワンを加えた雑酒計は約98%となります。また、ビール、発泡酒、ドラフトワンを合計した前年比は、約97%となります。

当社全般 : 当社ビールは、エビス及びエビス黒の健闘で、ビール総需要に近づくまでに回復してきました。発泡酒は、基幹の北海道生搾りに力を集中して、大ヒットしたドラフトワンの影響を最少水準に留めました。この結果、発泡酒とドラフトワンを加えた雑酒計では3割近い伸び、全体では1割近い伸びとなりました。全体の年間計画も、年初発表の6900万函(前年比103%)を、7400万函(同110%)に上方修正しています。

黒ラベル : 業務用中心に拡販を進め回復の兆しが出てきましたが、総需要水準には及びませんでした。年初計画の2750万函(前年比91%)は、2730万函(同90%)に下方修正し、確実な達成を目指します。

エビス : エビス単独では336万函(前年比101.2%)と好調を維持し、エビス<黒>は52万函(同205.1%)と順調でした。昨年下半年はエビス<黒>再発売があり、その反動を加味した年間販売計画は、エビス全体で1000万函(同100%)を見込んでおり、2年連続で大台を目指しています。

ギネス : 02年前年比147%の急成長後も、03年106%、本年上期105.6%と成長を続けています。近年のアイリッシュパブ展開が奏功し、ブランド拡大が進んでいます。

生搾り : 北海道生搾りが708万函(前年比73.1%)、本年3月発売の麦100%生搾りが148万函となっています。ドラフトワンの影響については、生搾り全体の昨年同期比較は208万函減(2割弱相当)ですので、影響は最少水準に留めたと判断しています。ドラフトワンで得た数量はその4倍(800万函)近くに当たります。生搾り全体の年初計画は2000万函(前年比93%)でしたが、1750万函(同81%)に下方修正しました。

ドラフトワン : 2月4日の全国発売から爆発的にヒットし、当初計画1000万函を、4月に1400万函、7月に1700万函と2回にわたって上方修正しました。スッキリした味わいで家庭用定番の一角を占め始めています。

以上